



## ② 郷土の中で体験する活動

5年生が、地元の農家の方の田んぼを借り、その地元の方の指導のもと、稲作体験を行った。春に田植えを行い、夏には苗の生育状況を観察し、秋に稲刈りと脱穀を行った。収穫した米は、家庭科の時間に子どもたちが炊き、給食時間に食べた。新宮地区は、緑豊かな地域であり、稲作をしている家も多い。しかしながら、子どもたちのほとんどが米作りの経験がない。地元農家の方の協力のもと、自分たちでお米を作り食べることを通して、自然のありがたみや勤労することの大切さを実感する。

## ③ 郷土で働く人から学んで自分に生かす学習

6年生が、地元で働いている方のお話を聞く。今年度は、新宮地区まちづくり協議会会長、地元で陸上を教えてください方、ハローワークの職員等、様々な方々が講話をしてくださり、子どもたちは郷土で働く人から、自分の将来の職業について漠然としてではあるがイメージを描くことができた。この取組は、郷土教育とともに、将来の自分の夢をかなえるキャリア教育と繋げるものである。

## ④ 福祉体験活動

4年生が、市の社会福祉協議会の方の協力のもと、福祉体験学習を行った。この学習の初めには、福祉協議会の方に「福祉」全般について講話をしていただいた。その後、目の不自由な方に、日々の暮らしや盲導犬についてお話しをしていただいたり、手や足に重りをつけ、目には視界を狭くする眼鏡をかけるシニア体験をしたり、車いす体験をとおして高齢者や障がいについて学んだりした。5・6年生が、ハンセン病回復者の方からハンセン病そのものについてやこれまでに体験した出来事を聞く活動を行った



① の写真（酪農農家の見学）



② の写真（稲作体験：田植え）



③ の写真（郷土で働く方の講話）



④ の写真（福祉：車椅子体験）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解, 文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化, 文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他 ( 郷土教育 )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的, 総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他 (自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他 (自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍, ウェブサイト, パンフレットなど具体名)

<b>学校ESDテーマ 1 「郷土教育」</b>	
1 教具・教材・実験器具・観察機材 等	
1年 虫かご 虫取り網 カメラ ルーペ 観察ノート	
2年 カメラ 観察ノート	
3年 カメラ 聞き取りノート	
5年 農機具 手袋 長靴など ルーペ 物差し 観察ノート	
6年 カメラ 記録用ノート	
2 図書・図鑑等	
(1) 「飼育と観察」 発行者: 八巻孝夫 発行所: 小学館 発行年: 2005年	
<b>学校ESDテーマ 2 「福祉教育」</b>	
1 教具・教材・実験器具・観察機材 等	
1年 紙皿 折り紙 リボン	
4年 車イス アイマスク	

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

・ 3年生～6年生にかけては、主に総合的な学習の時間に、それぞれが個人目標と計画をたてて、学習を進めていきます。それぞれの単元の最後には、学習した内容をまとめて「輝き学習」として、発表会を開きます。学習する内容は、歴史や農家で働く人々等、各教科や特別活動の学習内容と重なる部分もあり、総合的な学習と社会科を並行して進めています。

・ 1年生、2年生については、主に生活科の時間に、「郷土を知る」に関わる活動を行っています。

・ また、全校や学年に関わる活動については、行事として取り扱っています。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

・ 校務分掌の中に、郷土教育担当を位置づけ、担当者が、郷土教育全体計画を作成して、学校の教育目標の元、郷土教育の目標を定め、目指す児童の姿を明確にしています。郷土教育全体計画には、各学年の重点目標や教科や総合的な学習、道徳、特別活動での目標や実施内容も示しており、学校全体で組織的かつ継続的に取り組める体制を整えています。また、この全体計画は、保育園や中学校とも連携しており、系統立てて学習をすすめるようにしています。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

・ 学校の教育活動全般に関わって、保護者及び本校職員が、学校活動の評価を行っています。また、学校関係者評価委員会（学校評議員、地元有力者、PTA 会長、近隣の中学校長）が、授業参観や学校行事等を参観して、評価してくださっています。それにより、本校の郷土学習については、保護者の95%の方からおおむね良いと評価をいただいています。課題としては、地域講師の高齢化があげられ、講師の確保が必要となっています。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

・学習した内容は、「輝き学習」として、他学年に伝え次年度の学習に参考にしてもらったり、授業参観の折に保護者へ発表したりと、校内及び地域へ発信しています。内容については、郷土で働く人から学んだこと、郷土の特色、郷土の偉人から学んだこと、福祉学習から学んだこと等です。これらの学習から、郷土の良さを再確認し、郷土に貢献していこうとする意欲を培うことができました。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

・大学等とのコミュニケーションはとっていませんが、新宮地区まちづくり協議会と連携をして、地域で働く人々の講師役をお願いしています。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

・今年度は、国内外とのユネスコスクールとの交流は行っていませんが、ネット上にて、ユネスコスクールの活動を拝見させていただいています。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調したい)内容(例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化)(200字程度) ※チェック事項 2-5 に対応

・郷土学習を進めることで、郷土に愛着を持たせ、郷土に貢献する心情を培うことを目的としています。多くの若者は、高校卒業後、都会へ行き、故郷を離れてしまいます。今後、本校の郷土教育への取組を進めることで、地域に残ったり、地域に貢献する若者が増えたりすることで、持続可能な社会へと実現することを目指しています。

- (3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

・平成30年度も、郷土教育を推進していきます。地域の方の協力のもと、郷土の良さを知り、郷土の題材を使って体験学習をしていくことで、郷土を担う人材の育成を図っていきます。この試みが、郷土を持続可能な社会へ導くと考えています。